被災地の子に本を

SNS活用 小中高へ 2500冊

関大教授ら呼びかけ

関西大学文学部（大阪府吹田市）の教員や学生らが中心になり、東日本大震災被災地の小中高校に本を贈る活動を続けている。本はツイッターやフェイスブックなどで市民から募っており、これまでに約2500冊を寄贈した。

被災地の学校に本を贈っている渡辺智山教授（奥）や学生ら。市民から寄せられた本は研究室で保管している＝大阪府吹田市の関西大

支援通信

被災地の子どもが本にふれられる環境を取り戻したいと、渡辺智山（としたか）教授（図書館情報学）が教員や学生に協力を呼びかけ、2011年4月にボランティアグループ「あくせす・ぽいんと」を結成。東京や京都の大学の教職員も加わる。

対象は児童書や小説、図鑑類など。贈る団体が多いとみられる絵本は除いている。寄せられた本の内容や状態で贈る本を選定し、低学年児童書、高学年児童書などに分類してデータベース化。書名や著者名などを一覧にし、サイト（http://www.v-accesspoint.org/）内で紹介する。

学校側はその中から希望の本を選んで申し込む。一覧になくても、サイト内で希望の本を書き込める。

個人約50人のほか学校や企業などから3千冊以上が寄せられ、岩手、宮城、福島の約20の学校などに寄贈した。今も約650冊を登録する。本を提供した、東京都内の学校図書館で司書を務める40代の女性は「本は心の支えにもなる。楽しく子どもたちに読んでもらえたら」と話す。

福島市立飯野中学校は震災で図書室の本が書棚から落ちた。傷んで読めなくなった本も。ネットで活動を知った図書館教育担当の渡辺千穂教諭（48）は12年、東野圭吾さんの小説などを要望。あくせす・ぽいんとが選んだ本も含め64冊が送られてきた。渡辺教諭は「贈られた本は子どももよく手に取っている。遠いところにも、被災地のことを考えてくれる人がいるのがうれしい」と言う。

関西大の渡辺教授は「息長く、学びを支えたい」。分類作業などのボランティアも募集中。問い合わせはあくせす・ぽいんと事務局（090・1099・9365）。

（前田智）

東日本大震災

死亡	15,889人
行方不明	2,594人

警察庁発表（10日現在）